

# 教師志望の大学生が持つ教師になることに対しての

## 不安に関する研究

○大塚 哲 (上越教育大学)

西川 純 (上越教育大学教職大学院)

(j252029l@myjuen.jp)

### 要約

本研究の目的は、次の2点である。第1は、教師志望の大学生が教師になることに関して不安を感じていることを明らかにすることである。第2は、1年生から4年生までで、その不安に差があるのかどうか明らかにすることである。その結果、教師志望の大学生が授業、いじめ、保護者対応に不安を感じていることが明らかになった。また、各学年が感じる不安に差があることが明らかになった。

キーワード：教師志望の学生, 教職, 不安

### I 問題の所在

中央教育審議会(2012)では、これからの教員に求められる資質能力として「教職に対する責任感, 探求力, 教職生活全体を通して自主的に学び続ける力」, 「専門職としての高度な知識・技能」, 「総合的な人間力」の3つを挙げている<sup>1)</sup>。また、中央教育審議会(2015)は「ICTの利活用, 特別支援教育, 外国語教育, 道徳など新たな教育課題や, アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善などに対応した教員養成・研修が必要である」と示している<sup>2)</sup>。これらのことより、現在教師が現場で求められていることが多くなっていることが分かる。

教師が参加する研修について OECD 国際教員指導環境調査(2013)によると、教員の初任者研修については、参加国平均で49%の教員が公的な初任者研修プログラムに参加し、44%の教員が非公式の初任者研修に参加している。日本は公的な初任者研修プログラムに参加している教員が83%と多い。しかし、初任者以外の教員は、職務開発への参加の障壁として「職務開発の日程が自分の仕事のスケジュールと合わない」という項目が、参加国平均が51%に対して日本では平均を大きく上回る86%となっており、職務開発に参加した

くても参加できていない現状がある。また、1週間当たりの仕事にかかる時間は、参加国平均では38時間であるが、日本は最も多く54時間である。さらに、教員が指導(授業)に使った時間は、参加国平均では週19時間に対し、日本の教員は週18時間で同程度であり、日本の場合、一般事務業務など授業以外の業務に多くの業務に多くの時間を費やしていることが分かる<sup>3)</sup>。このことから、現在の教師の仕事の負担の多さが分かる。

仕事の負担の多さが原因である、教師の「病気」を理由とした依願退職者が増えている。教職員のメンタルヘルス対策検討会議(2013)において、精神疾患による教員の病気休職者数はH23年度に約5,300名となり、依然として高水準にあり深刻な状況である。これは、在職者に占める割合は約0.6%となり、最近10年間で約2倍に増加している。その背景として、文部科学省は業務量増加や質の困難化、教諭間の残業時間のばらつき、校長等とその他の教職員との間の認識ギャップ(上司が部下の健康状態の把握のずれ)等を挙げている<sup>4)</sup>。

このような中で石原(2010)は新任教師の困難について着目し、新任教師は学習指導、生徒指導に関する困難性を認識していることを明らかにし

た<sup>5)</sup>。また、佐々木(2010)は、初任者の1年間の中でモチベーションが低い2つの時期を第一クライシス期(4月→7月)、第二クライシス期(9月→12月)と命名し、その二つの共通の要因として「やるが多すぎて、仕事がこなせない」、「教師に向いていない自分との葛藤」などを挙げている<sup>6)</sup>。これにより新任教師が考え感じる困難は明らかになっている。しかし、新任教師になる前の教師志望の大学生が感じる不安については明らかとされていない。現場で求めている教師になるにあたり、教員志望の大学生が実際に何に不安を感じているのか明らかにすることは、新任教師の成長を考える上で有効であると考えられる。

## II 研究の目的

本研究では、教師志望の大学生が、教師になることに対して、どのような不安を感じているのか明らかにし、また、1年生から4年生まででその不安に差があるのか明らかにすることを目的とする。

## III 研究の方法

### 1 調査対象

- ・ J大学教育学部学生

### 2 調査期間

- ・ 2016年9月下旬～12月

### 3 調査の概要

教師になることに対しての不安に関するアンケートを作成し、9月下旬から11月上旬までアンケート調査を行い、学生が感じている不安を明らかにする。また、その不安に各学年で差は生じるのか検証する。アンケートの内容は表1の通りである。

### 4 分析方法

(分析1)教師志望の学生が教師の仕事に対してどのようなことに不安を感じているのか明らかにする。

(分析2)

学生が感じている不安のカテゴリー分けを行い、どのような不安が多いのかを明らかにする。

(分析3)

それぞれの学年で多かった不安のカテゴリーを

比較し、各学年で不安に差があるのかどうか明らかにする。

## IV 結果と考察

教師志望の大学生が感じる不安として、授業だけでなく、いじめ問題や、保護者への対応などにも不安を感じていることが明らかになった。また、実習を経験していない1,2年生は授業面に不安を感じている人が多いが、実習を経験している3,4年生は授業よりも、いじめや保護者対応など授業以外のことに不安を感じていることが明らかになった。

※詳細については、当日発表する。

### 引用・参考文献

1) 中央教育審議会：「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」,2012.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/c\\_hukyo3/siryo/attach/1325922.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/c_hukyo3/siryo/attach/1325922.htm) (2016/11/02 閲覧)

2) 中央教育審議会：「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」,2015.

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf) (2016/11/02 閲覧)

3) 国立教育政策研究所：「OECD 国際教員指導環境調査(TALIS)2013年調査結果の要約」,2013.

[http://www.nier.go.jp/kenkyukikaku/talis/imgs/talis2013\\_summary.pdf](http://www.nier.go.jp/kenkyukikaku/talis/imgs/talis2013_summary.pdf) (2016/11/02 閲覧)

4) 文部科学省：「教職員のメンタルヘルス対策検討会議『教職員のメンタルヘルス対策について』」,2013.

5) 石原陽子：「新任教師の困難に関する考察一質的・量的調査分析から一」,2010.

6) 佐々木邦道,保坂亨,明石要一：「初任者教員のモチベーション研究 I - 1年間の変容の軌跡 -」,2010.